11. 学術委員会報告

学術委員会から日本数学会季期研究所（MSJ-SI=Mathematical Society of Japan, Seasonal Institute）について報告いたします.

2008 年度より MSJ-IRI を MSJ-SI と名称を変えて，日本数学会がより主体的に運営に係る形で開催することとなりました．2008 年度 MSJ-SI は，数学会事務局による運営援助を受け，以下のように開催されました.

Probabilistic Approach to Geometry
日時：2008 年 7 月 28 日(月)－8 月 8 日(金)
場所：京都大学
組織委員：小谷元子(委員長)，新井仁之，
熊谷隆，K.T. Sturm
現地組織委員：熊谷隆(委員長)，日野正訓，
加藤毅，太田慎一
サーベイ講演 5 名，1 時間講演 21 名，30 分講演 12 名，一般講演 13 名，参加者 180 人（海外 52 人）

2009 年度 MSJ-SI につきましては次のように予定され，現在計画が進められています.

Arrangements of Hyperplanes
日 時：2009 年 8 月 1 日-13 日
場 所：北海道大学
組織委員長：寺尾宏明

2010 年度 MSJ-SI につきましては昨年度数学通信第三号（11 月発行）で行なったテーマ募集に対して 4 件の応募があり，外部に依頼したレフェリーのご意見を参考にしながら学術委員会で検討した結果

Development of Galois-Teichmueller theory and anabelian geometry
組織委員長：中村博昭

と決定いたしました.

学術委員会では今年度の経験を通じて数学会事務局の運営支援体制を協議・検討してきました．それに基づき，2011 年度(平成 23 年度) の MSJ-SI についてテーマ公募を行います．100－102 ページにある募集のお知らせをご参照ください．会員の皆様の多数の応募をよろしくお願い致します.

（学術委員会委員長　古田幹雄記）